

福島県立図書館は令和6年7月で森合移転40周年を迎えました

図書館だより no.250

福島県立図書館



2024(令和6)年11月20日発行 編集・発行 福島県立図書館
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787 <https://www.library.fcs.ed.jp/>



展示のご案内

◆企画展示 新聞に見る福島県立図書館森合移転40周年

福島県立図書館は福島市森合に移転開館して今年で40周年を迎えました。
当館の新聞コレクションから、移転前後の様子を報じた記事を紹介しします。

場所：企画展示コーナー

期間：10月4日(金曜日)から12月4日(水曜日)

◆企画展示 福島県立博物館移動展「ふくしまの酒造り—酒を醸し和を醸す—」

全国新酒鑑評会金賞受賞数9回連続日本一を成し遂げた「酒どころ・ふくしま」。
そのルーツともいえる県内各地の酒造りの文化・歴史を紹介しします。



福島県立博物館
シンボルマーク

展示予定資料



酒造りのようす(しぼり作業)『日本山海名産図会』より 福島県立博物館蔵



引札(酒の広告) 会津酒造博物館蔵

場所：企画展示コーナー

期間：12月6日(金曜日)から12月27日(金曜日)

◆ミニ展示 朝河貫一の書簡 ～郷里の友へ～

朝河博士に愛兄と慕われ親交があった高橋春吉氏の御子孫から今年1月に御寄贈
いただいた春吉氏宛ての書簡12通を展示しします。

場所：公開図書室内 センターホール

期間：12月6日(金曜日)から12月27日(金曜日)

年末年始 休館のお知らせ

令和6年12月28日(土曜日)から令和7年1月6日(月曜日)まで、

年末年始の休館となります。

年始は、1月7日(火曜日) 午前9時30分より開館いたします。

\\ 毎月恒例 //

ちいさなおはなしかい

12月12日(木曜日)

10時30分から

第一研修室にて

予約不要・参加無料です

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・社会・自然

『図書館には人がいないほうがいい』内田 樹/著、
朴 東燮/編訳 アルテスパブリッシング 2024.6
010.4/㊦ 246

図書館の書架の間を歩いているとき、書庫から本を持ってくるとき。「ここにある本は一生かけても全部読むことはできないんだ…」と、寂しいような焦るような気持ちになることがあります。そんな気持ちを抱かせることこそが図書館の役割だと著者は述べています。同じような気持ちになったことのある方、必見です。

『<図説>ポケットと人の文化史』ハンナ・カールソン/著、
岸川 由美/訳 原書房 2024.9 383.1/加 249

著者は勤務先で行われた避難訓練の際に、「衣服のポケットの有無は、いざという時の備えに大きな差が出る」ということに気づきます。そもそもポケットの起源は何なのか。なぜ衣服のポケットに性差が生まれたのか。ポケットの歴史を振り返りつつ、それに関連する服飾文化や人の行動、偏見などあらゆる角度からの考察が見どころの一冊です。

『患者のための図書館学 医療・健康情報リテラシーを鍛える』山口 直比古/著 えにし書房 2024.8
490.7/㊦ 248

インターネットは医療・健康情報を得るのには欠かせませんが、誤った情報も大量に流通しています。本書はそんな現在で役立つ医療・健康情報の活用ガイドです。特に情報の評価は充実しており、「かちもない」のキーワードで信頼性を見極める方法などが解説されています。健康情報を探すうえで是非読んでおきたい一冊です。

児童・児童図書研究

『アルプスの少女ハイジの料理帳』
イザベル・ファルコニエ/著、アンヌ・マルティネッティ/著、
金丸 啓子/訳 原書房 2023.11 J596.23/㊦

子どもの頃、おはなしに登場する見たことも聞いたこともない外国の食べものの味を想像して「いつか食べてみたい」と思ったことはありませんか。この本では世界的に有名な児童文学『アルプスの少女ハイジ』とその続編に出てくる料理のレシピが紹介されます。

ところでハイジと言われて思い出すのは高畑勲と宮崎駿によるテレビアニメ『アルプスの少女ハイジ』という方も多いと思いますが、このアニメが世界中で人気になったということをご存じでしたか？ この本ではレシピ以外にもハイジの映像化作品についてや著者シュピリの人物像などハイジにまつわる様々を知ることができます。次の休日は、あの有名なアニメの主題歌を口ずさみながらお料理してみたいはいかがでしょうか。

雑誌・新聞

昨今の国際情勢について特集された雑誌をご紹介します。ぜひご活用ください。

『世界』岩波書店 Z051/S1 2024.12(第988号、
2024年12月)
特集「視えない中国」

『Newsweek 日本版』CCCメディアハウス
Z051/N11 2024.11(第39巻第39号、通巻1905
号、2024.11・5/12号)
特集「米大統領選と日本経済」

『Voice』PHP 研究所 Z051/V1 2024.12
(通巻564号、令和6年12月号)
特集「宗教が動かす国際政治」

『中東研究』中東調査会 Z302.28/C2 2024.9
(第551号、2024年度、VOL.2)
特集「地域諸国にとってのガザ危機」

『フォーリン・アフェアーズ・リポート』
フォーリン・アフェアーズ・ジャパン Z319/F1
2024.11(2024 NO.11)
特集「分裂した世界にどう向き合うか」

地域

『安積采女の真実』安藤 智重/著 歴史春秋出版
2024.7 L213/R1/5

毎年8月に行われるうねめまつりのモチーフとなっている「采女（うねめ）伝説」。悲恋物語として知られるこの伝説ですが、史料を読み解くと、伝説とは異なる安積采女の本来の姿が浮かび上がってきます。「万葉集」や「続日本紀」などの文献や、歴史学・民俗学の知見から、伝説の基となった安積采女の実像に迫ります。

歴史上の安積采女だけでなく、采女伝説の発祥、安積・郡山の地名の由来、郡山市の花でもある伝説の花「花かつみ」について、史料をひもときながら考察がされていきます。郡山の歴史について熟考できる一冊です。

『新・四季彩々』星 賢孝/著 言視舎
2024.8 L748/H15/1-2

只見線を撮影した写真集の第二弾です。2011年7月の新潟・福島豪雨により甚大な被害を受けた只見線は、2022年10月1日より、全線で運転を再開しました。本書は、30年にわたり只見線を撮影してきた写真家による写真集で、再開後の只見線の絶景が多数掲載されています。春の桜、夏の幻想の川霧、秋の紅葉、冬の雪など、四季折々の只見線沿いの景色と、その中を走る車両の姿が収められています。復活した只見線の美しい魅力を味わえる写真集です。